

第 3 9 回スポーツ審議会における 第 3 期スポーツ基本計画中間評価の進め方に関する主な意見の概要

- 科学的な視点・エビデンスを用い、グローバル・地域など色々な視点からの定点的な点検と評価、観測が非常に重要。
- 部活動の地域展開等や第 3 期スポーツ基本計画に関して、障害のある児童生徒の学校体育や部活動における見学を無くし、指導の充実が図られることが重要。
- 人材育成も重要である。人材の問題、質の問題で政策が絵空事になってしまう場合がある。
特に若年者の女性のスポーツ実施率が低いが、女性活躍や少子化対策、更年期対策等に関しても、健康へのスポーツの果たす役割が期待できる。
スポーツの効果に着目することは政策的には非常に意味がある。どう社会全般に広げていくか。
- 国際競技団体 I F 等の役員の数 3 7 人規模という目標に関して、国際競技力向上には、役員だけに限らず職員の数も増やしていくことも大切である。
- スポーツ団体の組織基盤の強化は、大変重要。2 0 2 0 東京大会決定前に比べるとそれぞれの競技団体の運営基盤は相対的にはよくなっているものの、自国開催の求心力がなくなり、スポンサー獲得などが難しい団体もある。
- 中間評価については、K P I とロジックモデルに基づく数値データだけではなく、実際に現場で、どのように活用されどういう効果が実感されているか、質的評価も行うことで、今後、より具体的にそれぞれの状況に合わせた対応が可能となると思う。
- スポーツが持つ本質に根差す価値は不変だが、社会はどんどん変わる。様々な変化がスポーツ界側、そして日本の社会側に生じていることを踏まえる必要。中間評価は、これまで設定したものに、どのように有用であるかということのみならず、変化に対して、今後どのように日本のスポーツ、そしてスポーツ行政があるべきかという視点を持って評価をするべき。
- 第 3 期スポーツ基本計画より、E B P M ・科学的根拠に基づいたスポーツの政策を立案するために K P I が設定されている。K P I の設定にあたっては社会状況の変化（人口減少、高齢化の人口に伴う社会課題、地域間格差の拡大等）が前提として考えられてはいたものの、計画が策定された当初よりも、さらにスピードアップして、様々な課題が大きくなっている。K P I をしっかりと評価することも大事だが、その K P I が出来た背景についても考慮し、色々な先生方の意見も踏まえながら見直す必要がある。